令和４年度 国際自然環境アウトドア専門学校 学校評価委員会 議事録

開催日時：令和 5 年 3 月 7 日 10 時 00 分～11 時 00 分
会 場：国際自然環境アウトドア専門学校　教室(一部委員オンライン参加)

出席者：
評価委員
・畠山 浩一　　公益社団法人日本山岳ガイド協会 常務理事
・萩原 浩司　　株式会社山と溪谷社 取締役 山岳出版本部 本部長
・小林 朋広　　国立妙高青少年自然の家 所長
・宮下 孝　　妙高市観光商工課 課長補佐
・宮下 富男　　妙高市原通自治会 会長
・大瀧 則雄　　学校長
・植木 潤　　副校長/事務局長
・田辺 慎一　　教務部長/就職部長
・遠藤 晋　　野外教育・アウトドアスポーツ学科 副学科長/
　　キャンプビジネス学科 副学科長
・斎藤 達也　　自然ガイド・環境保全学科 学科長/自然環境保全学科 学科長
・吉田 美栄　　山岳プロ学科 学科長
・小野 彰太　　アウトドアプロインストラクター学科 学科長

議事進行次第により実施
１．議事
　植木委員以下内容の説明を行う
　１）説明
　　(ア)学校関係者評価委員会について
　　(イ)職業実践専門課程について
　　(ウ)令和 4 年度自己評価について
　　議事内容を説明後各委員の皆様方に審議をお願いした。

畠山委員
　学校運営の自己評価については特に問題はない。今回の説明でより理解が深まった部分もある。また、昨年、田辺、吉田両委員とじっくり話す機会があり、 昨今の学生対応・専門教育の難しさや、今後のアウトドア業界への人材輩出について、継続的に意見交換する必要性をお互い感じていることを確認した経緯がある。

萩原委員

学校運営の自己評価については適切である。退学率と教育環境・学びの支援（メンタル面でのフォロー)、について今後の新たな方針について期待している。

植木委員
萩原委員への回答
退学については、人材不足の深刻化もありインターンシップ先の学生引き抜きもいくつか発生してきている。今後、インターンシップ制度の見直しも含めて、改善していく。メンタル面のフォローについては、県のカウンセリング協会と連携したカウンセリング制度や、オンラインを活用した SNS 相談の導入など、学生を多面的にフォローできるような環境を整備してきている。

小林委員
学校運営の自己評価については特に問題はない。ICT 教育の状況について、具体的な取り組みがあれば教えてほしい。

田辺委員
小林委員への回答
当校の授業では、ちょうどコロナが始まった 2020 年から、マイクロソフトの Office365 を導入し、たとえば、プラットフォームとして teams の活用（オンライン授業、ファイルの共有、wiki 機能での情報共有、投稿機能を使っての各種連絡等）を進めてきている。また、主に授業アンケートとして、同じ office ファミリーのアプリである Forms を活用している。

宮下富男委員
退学率に関して、これまで地域の自治体イベントがコロナでできなかったことも遠因としてあるのではと感じている。具体的には、コロナ前には、地域住民との定期的な関わりを通して、学生生活の支援になっている面もあったかもしれない。今後、コロナが落ち着いてきたら、コロナ前のように、年 3 回の自治会イベントを復活する予定なので、学生参加・地域交流もぜひお願いしたい。

植木委員
宮下富男委員への回答
学生の成長には、教員だけではなく、保護者や地域の方々など、さまざまなステークホルダーのみなさまのご協力が必要なので、今後も引き続き学校と地域の連携をお願いしたい。

＊宮下孝委員は、急用により途中退席（オンライン参加）となったため、質疑応答はなし

閉会